

新学習指導要領に対応した学習評価 (小学校 総合的な学習の時間)

文部科学省

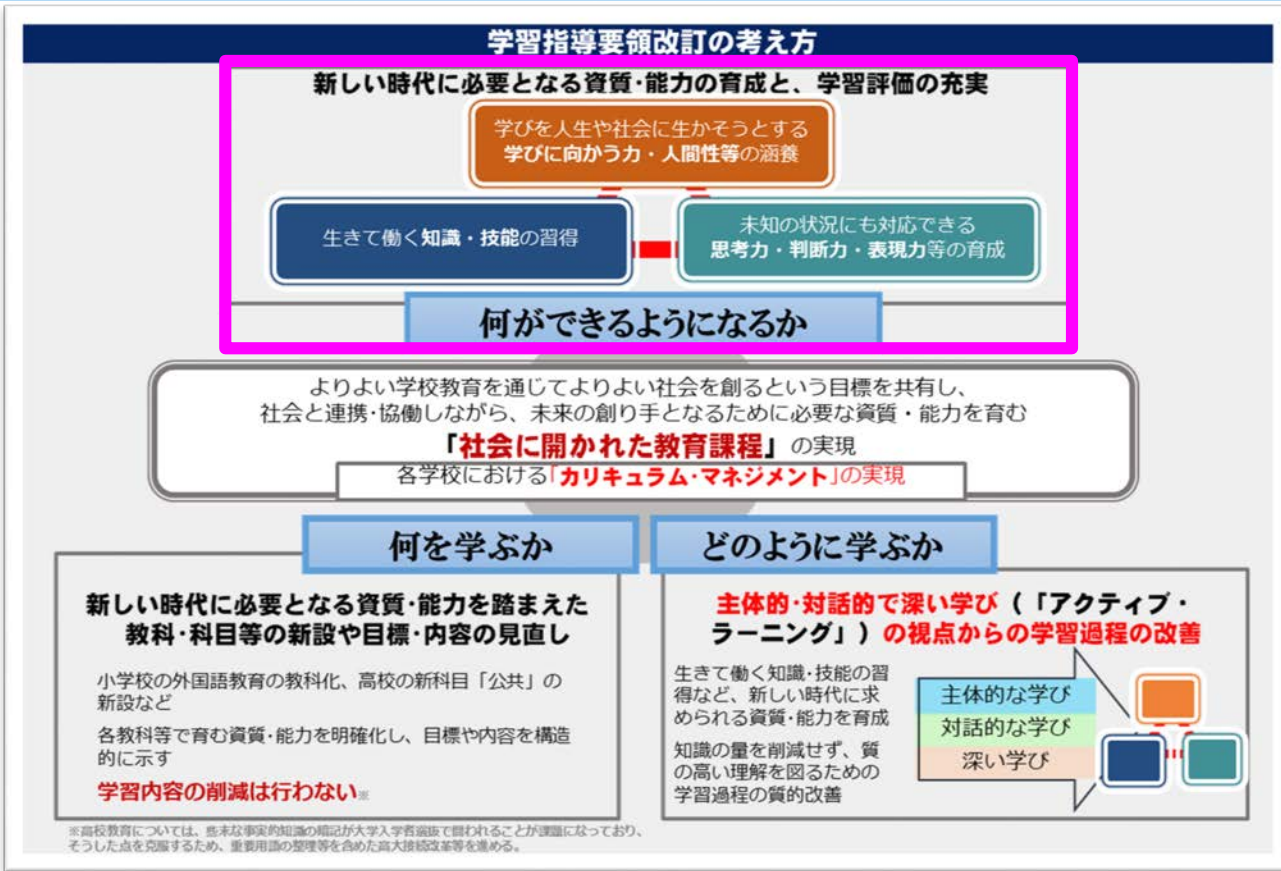
初等中等教育局

教育課程課教科調査官 渋谷 一典

1. 総合的な学習の時間で育成する資質・能力
2. 学習評価の進め方
3. 評価規準の作成のポイント

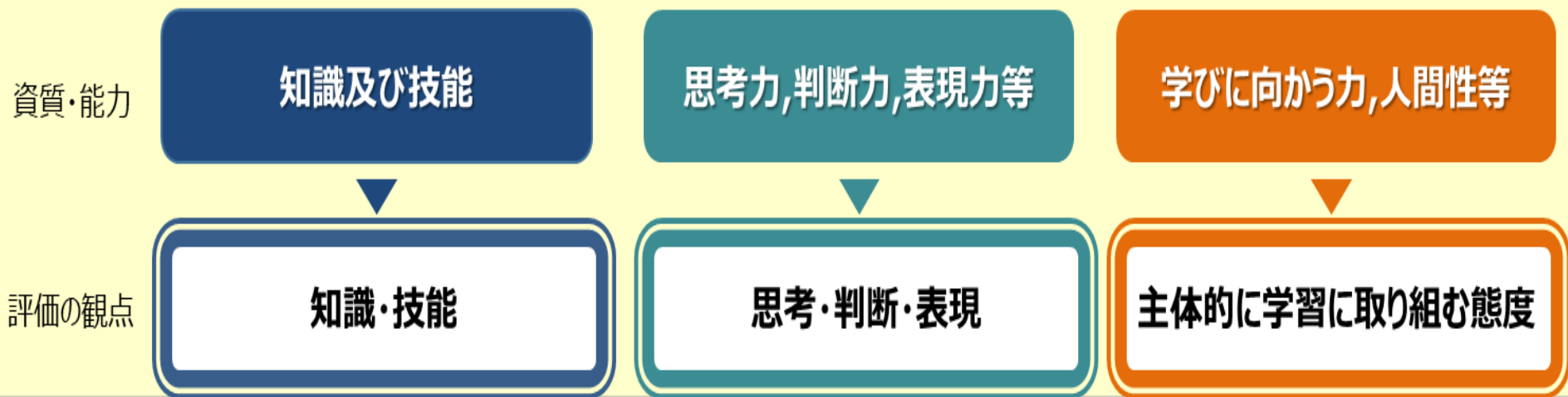


1. 総合的な学習の時間で育成する資質・能力



何を知っているか
から
知っていることを使って
何ができるようになるか
を重視

1. 総合的な学習の時間で育成する資質・能力



1. 総合的な学習の時間で育成する資質・能力

総合的な学習の時間の評価の観点及びその趣旨

<小学校 総合的な学習の時間の記録>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。	実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」の別紙5から
(平成31年3月29日)

1. 総合的な学習の時間で育成する資質・能力

【総合的な学習の時間の目標（第1の目標）を踏まえた評価の観点の例】

第1 目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

観点例	よりよく問題を解決する資質や能力	学び方やものの考え方	主体的、創造的、協同的に取り組む態度	自己の生き方
-----	------------------	------------	--------------------	--------

従前の評価の観点の例示とその考え方

第1の目標を踏まえたもの

【学習指導要領に示された視点（第3の1(4)）を踏まえた評価の観点の例】

第3の1(4)

育てようとする資質や能力及び態度については、例えば、学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会とのかかわりに関することなどの視点を踏まえること。

観点例	課題設定の力 (学習方法)	情報収集の力 (学習方法)	将来設計の力 (自分自身)	社会参画の力 (他者や社会との関わり)
-----	------------------	------------------	------------------	------------------------

学習指導要領に示された視点を踏まえたもの

【各教科の観点との関連を明確にした評価の観点の例】

観点例	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
-----	----------	----------	----	-------

各教科の観点との関連を明確にしたもの

1. 総合的な学習の時間で育成する資質・能力

様式2 (指導に関する記録)

児童氏名	学校名	区分	学年	1	2	3	4	5	6
		学	年						
		期	別						

各教科の学習の記録								特別の教科 道徳			
教科	観点	学	年	1	2	3	4	5	6	学年	学習状況及び進捗性に係る成長の様子
知識・技能										1	
思考・判断・表現										2	
主体的に学習に取り組む態度											

総合的な学習の時間の記録			
学年	学習活動	観点	評価
3			
4			
5			
6			

体	育	評定	観 点						内 容	観 点	学 年	1	2	3	4	5	6
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	学級活動	児童会活動	クラブ活動									
外	育	評定															
外	育	評定															

学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点のうち、児童の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。

各学校は、学習指導要領に示す総合的な学習の時間の目標（第5章第1）及び学校教育目標を踏まえ、総合的な学習の時間の目標を定める。そして、この「目標を実現するにふさわしい探究課題」と「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」を示した内容を設定。この目標と内容に基づいた観点を設定することになる。

観点の設定に当たっては、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力について、学習指導要領に示された三つの事項に配慮

1. 総合的な学習の時間で育成する資質・能力

総合的な学習の時間 第1の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようになる。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

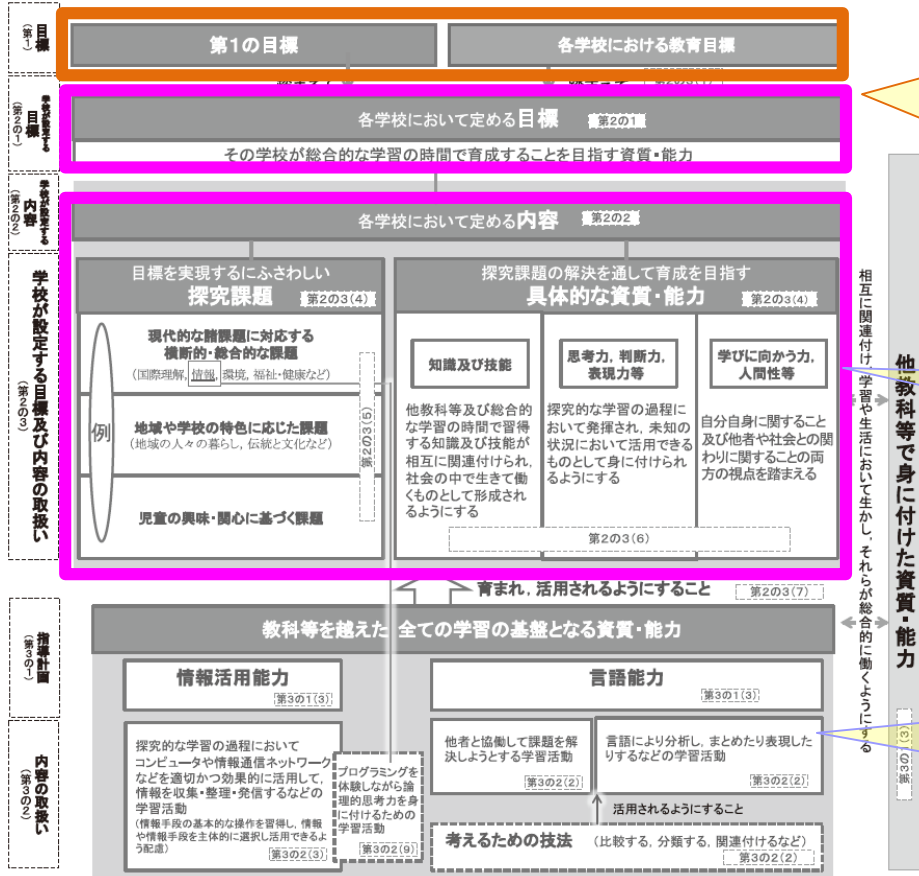
総合的な学習の時間の特質に応じた学習の在り方を示す部分（柱文）

- ① 探究的な見方・考え方を働かせる
- ② 横断的・総合的な学習を行う
- ③ よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく

育成することを目指す資質・能力を示す部分

- (1) 「知識及び技能」
- (2) 「思考力、判断力、表現力等」
- (3) 「学びに向かう力、人間性等」

1. 総合的な学習の時間で育成する資質・能力



目標の改善

- ① 「探究的な見方・考え方」を働かせ、総合的・横断的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを旨とするを明確化
- ② 教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう、各学校における教育目標を踏まえて設定

内容の改善①

「目標を実現するにふさわしい探究課題」「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」を設定

内容の改善②

他教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活の中で総合的に活用

内容の改善③

教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力を育成

他教科等で身に付けた資質・能力
相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにする

2. 学習評価の進め方

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	①地域には、多文化共生プラザ等、外国人を支援する行政機関があることを知るとともに、多様な人が暮らしているまちのよさや、一人一人の存在が守られていることを理解している。	①課題の解決に向けた計画書の作成に当たり、何をするのか、何のためにするのかを意識し、解決の見通しをもって計画を立てている。	①地域に暮らす外国人との意見交流会において、異なる文化や価値観を受け入れ、尊重するとともに、共通性を見いだそうとしている。
	②インタビューによる街頭調査を、相手や場面に応じた適切さで実施している。	②街頭調査や意見交流会において行う質問について、必要とする情報に応じて質問の内容や方法を決めている。	②異なる文化の共生を目指したイベントの開催に当たって、参加者の状況に応じて対応し、目的意識を明確にして関わろうとしている。
	③多文化共生に対する自らの認識の高まりは、地域の日本人と外国人をつなげるために探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	③多文化共生を実現するためのイベントについて、「実現可能か」「意味があるか」「有効か」等の視点を結び付けてイベント開催の根拠を見いだしている。	③異なる文化の共生を目指したイベントを成功させるために、友達と役割を分担したり、自他の考えのよさを生かしたりしながら問題の解決に向けて協力して取り組んでいる。

単元の目標

地域における多文化共生を目指した活動を通して、**外国人が多く住む地域の実態**、それを支援する人々の思いや組織について理解し、**地域の一員として異なる文化を越えた共生の在り方を考える**とともに、**自らの生活や行動に生かすことができる**ようにする。

以下の4つの要素を構造的に配列して作成

- ・ 単元において中心となる**対象や活動**
- ・ 単元において重視する**「知識及び技能」**
- ・ 単元において重視する**「思考力、判断力、表現力等」**
- ・ 単元において重視する**「学びに向かう力、人間性等」**

2. 学習評価の進め方

指導と評価の計画

小単元名(時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 異なる文化を越えた共生やそこに暮らす人同士の関わりの実態を調べて問題点を見いだそう。(14)	・地域の実態から問題点を見だし、解決に向けた今後の活動への見通しをもつ。		①		・計画書
	・グローバルな視点と地域の視点から異なる文化を越えた共生やそこに暮らす人同士の関わりの実態を調べて問題点を見いだす。 ※グローバルな視点による情報収集(国連担当者によるワークショップ、社会科の内容との関連、新聞・書籍等) ※地域の視点による情報収集(地域住民への街頭調査、支援する行政機関への訪問等)	①			・意見文
2 地域に住む様々な国の人々との意見交流会を開催し、問題点の解決策を探ろう。(8)	・街頭調査や意見交流会開催の目的や質問項目、情報収集の蓄積方法を明確にする。		②		・情報収集計画シート
	・街頭においてインタビューを行う。	②			・ノート ・集計シート
3 異なる文化を	・地域に暮らす外国人との意見交流会を開催し、問題の原因を探ったり、問題の解決に向けたよりよい方法について考えを交流したりする。			①	・行動観察 ・作文シート
	・地域の異なる文化を越えた共生や関わりに向		③		・作文シート

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	①地域には、多文化共生プラザが、外国人を支援する行政機関があることを知るとともに、多様な人が暮らしているまちのよさや、一人一人の存在が守られていることを理解している。	①課題の解決に向けた計画書の作成に当たり、何をやるのか、何のためにやるのかを意識し、解決の見通しをもって計画を立てている。	①地域に暮らす外国人との意見交流会において、異なる文化や価値観を受け入れ、尊重するとともに、共通性を見いだそうとしている。
	②インタビューによる街頭調査を、相手や場面に応じた適切さで実施している。	②街頭調査や意見交流会において行う質問について、必要とする情報に応じて質問の内容や方法を決めている。	②異なる文化の共生を目指したイベントの開催に当たって、参加者の状況に応じて対応し、目的意識を明確にして関わろうとしている。
	③多文化共生に対する自らの認識の高まりは、地域の日本人と外国人をつなげるために探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	③多文化共生を実現するためのイベントについて、「実現可能か」「意味があるか」「有効か」等の視点を結び付けてイベント開催の根拠を見いだしている。	③異なる文化の共生を目指したイベントを成功させるために、友達と役割を分担したり、自他の考えのよさを生かしたりしながら問題の解決に向けて協力して取り組んでいる。
		④活動を通して学んだ自らの思い、自己の成長、学びによる自己の変容を生かしてラップで表現している。	

3. 評価規準の作成のポイント

(1) 「知識・技能」

観点	知識・技能
評価規準	①地域には、多文化共生プラザ等、外国人を支援する行政機関があることを知るとともに、多様な人が暮らしているまちのよさや、一人一人の存在が守られていることを理解している。
	②インタビューによる街頭調査を、相手や場面に応じた適切さで実施している。
	③多文化共生に対する自らの認識の高まりは、地域の日本人と外国人をつなげるために探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。

- ①概念的な知識の獲得
- ②自在に活用することが可能な技能の獲得
- ③探究的な学習のよさの理解

① 事実に関する知識を関連付けて構造化し、統合された概念的な知識を獲得している児童の姿を評価規準として設定。ここでは、多様性に関する概念的な知識の獲得として評価規準を設定

② 技能が特定の場面や状況だけではなく、日常の様々な場面や状況で活用可能な技能として身に付いているか、具体的には技能がいつでも、滑らかに、安定して、素早く行われているなどの児童の姿を評価規準として設定

③ 探究的な学習のよさの理解として、資質・能力の変容を自覚すること、学習対象に対する認識が高まること、学習が生活とつながることなどを、探究的に学習してきたことと結び付けて理解しているなどの児童の姿を評価規準として設定。ここでは、学習と多様性とのつながりの理解として評価規準を設定

3. 評価規準の作成のポイント

(2) 「思考・判断・表現」

「①課題の設定」、「②情報の収集」、「③整理・分析」、「④まとめ・表現」の過程で育成される資質・能力を児童の姿として示し、評価規準を作成

思考・判断・表現

- ①課題の解決に向けた計画書の作成に当たり、何をするのか、何のためにするのかを意識し、解決の見通しをもって計画を立てている。
- ②街頭調査や意見交流会において行う質問について、必要とする情報に応じて質問の内容や方法を決めている。
- ③多文化共生を実現するためのイベントについて、「実現可能か」「意味があるか」「有効か」等の視点を結び付けてイベント開催の根拠を見いだしている。
- ④活動を通して学んだ自らの思い、自己の成長、学びによる自己の変容を生かしてラップで表現している。

① 課題の設定

実社会や実生活に広がっている複雑な問題に向き合っ、自らの力で解決の方向を明らかにし、見通しをもって計画的に取り組むことができるようになることを期待。例えば、「複雑な問題状況の中から課題を発見し設定する」「解決の方法や手順を考え、確かな見通しをもって計画を立てる」などの視点による設定が考えられる。

② 情報の収集

情報収集の手段を意図的・計画的に用いたり、解決の過程や結果を見通したりして、多様で効率的な情報収集が行われるようになることを期待。例えば、「情報を効率的に収集する手段を選択する」「必要な情報を多様な方法で収集し、種類に合わせて蓄積する」などの視点による設定が考えられる。

③ 整理・分析

収集した情報を取捨選択すること、情報の傾向を見付けること、複数の情報を組み合わせて新しい関係を見出すことなどができるようになることを期待。例えば、「異なる情報の共通点や差異点を見付け、関係や傾向を明らかにする」「事象を比較したり関連付けたりして、確かな理由や根拠をもつ」などの視点による設定が考えられる。

④ まとめ・表現

整理・分析した結果や自分の考えをまとめたり他者に伝えたりすること、振り返ること対象や自分自身に対する理解が深まることなどを期待。例えば、「相手や目的に応じて効果的な表現をする」「学習を振り返り、自己の成長を自覚し、学習や生活に生かす」などの視点による設定が考えられる。

3. 評価規準の作成のポイント

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」

主体的に学習に取り組む態度

- ① 地域に暮らす外国人との意見交流会において、異なる文化や価値観を受け入れ、尊重するとともに、共通性を見いだそうとしている。
- ② 異なる文化の共生を目指したイベントの開催に当たって、参加者の状況に応じて対応し、目的意識を明確にして関わろうとしている。
- ③ 異なる文化の共生を目指したイベントを成功させるために、友達と役割を分担したり、自他の考えのよさを生かしたりしながら問題の解決に向けて協力して取り組んでいる。

自他を尊重する「①自己理解・他者理解」

自ら取り組んだり力を合わせたりする「②主体性・協働性」

未来に向かって継続的に社会に関わろうとする「③将来展望・社会参画」

などについて育成される資質・能力を児童の姿として示して、評価規準を作成

① 「自己理解・他者理解」については、例えば、「自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする。」「異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする。」などの視点による設定が考えられる。事例では、それぞれの国の多様な文化や価値に直接触れる場面にこの評価規準を設定している。

② 「主体性・協働性」については、例えば、「自分の意思で目標に向かって課題の解決に取り組む。」「自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に取り組む。」などの視点による設定が考えられる。事例では、イベントの開催について、専門家からの評価を得ることで、相手に応じたり、目的を明確にしたりして行為する場面にこの評価規準を設定している。

③ 「将来展望・社会参画」については、例えば、「自己の生き方を考え、夢や希望をもち続ける。」「実社会や実生活の問題の解決に、自分のこととして取り組む。」などの視点による設定が考えられる。事例では、多文化共生をテーマにした魅力的なイベントにするための方法を考え、準備し、開催する場面にこの評価規準を設定している。

新学習指導要領に対応した学習評価 (小学校 総合的な学習の時間)

文部科学省

初等中等教育局

教育課程課教科調査官 渋谷 一典

ご静聴、ありがとうございました。